

写真展 「甦る首里城」

【期 間】 9月8日(火)～13日(日) 10時～17時



【出品者】 那覇市文化協会 写真部会

喜名 朝駿	天野 千鶴	親富祖 勝枝	川満 邦昭	金城 聡	金城 真紀子
國吉 倖明	桑村 ヒロシ	島袋 順子	永味 節子	中村 高士	名城 克哉
諸見里 安吉	安田 正昭	山城 博明			

首里城が焼失した2019年10月31日から直近までの首里城の復興の様子を会員が撮影した写真93点を展示しました。
失望が希望へと変わり、いよいよ甦る首里城への県民の想いを伝えます。

各文化協会日程

◎宮古島市文化協会「世や直れ」

令和8年8月22日(土)
マティダ市民会館

◎那覇市文化協会「誇らしや 首里城」

写真展：令和8年9月7日(月)～13日(日)
舞 台：令和8年9月13日(日)
首里城公園 首里杜館

◎石垣市文化協会「先島の誇る歌と踊り」

令和8年9月13日(日)
石垣市民会館

◎南部連合文化協会

「お新下り-祈りのしま」

・豊見城市 ・糸満市 ・南風原町
・八重瀬町 ・南城市 ・与那原町

令和8年9月19日(土)
シュガーホール

◎中部連合文化協会

「育まれてきた伝統芸能」

・浦添市 ・西原町 ・宜野湾市 ・中城村
・北中城村 ・北谷町 ・嘉手納町
・読谷村 ・沖縄市 ・うるま市

令和8年9月23日(土)
うるま市民芸術劇場響きホール

◎北部連合文化協会

「勇壮な木遣り唄-国頭サバクイの世界」

・恩納村 ・金武町 ・宜野座村 ・名護市
・本部町 ・今帰仁村 ・国頭村 ・伊江村

令和8年10月3日(土)
名護市民会館

◎久米島町文化協会「島の伝統文化」

令和8年10月18日(日)
久米島町農村環境改善センター

県内7ヵ所で開催

近現代首里城100年ものがたり・プラス

各公演入場無料

(要入場整理券)

スタッフ

【企画・監修】 崎山 律子

【音響】 (有)プロサウンドスタック

【ビデオ撮影】 ハル企画

【補助スタッフ】 野原 巴・金城 喜代美・玉城 幸

【表紙写真】 喜名 朝駿

【照明】 (有)沖縄舞台

【スチール撮影】 松茂良 勤

【演目揮毫】 宮城 芳堂・濱元 紅雲

【仮設舞台】 (株)コーディ・プロ

【印刷】 (株)うるま印刷

祝 首里城正殿復興記念事業



地域文化の 底力とひろがり

日 時：【写真展 甦る首里城】 令和8年9月8日(火)～13日(日)

【誇らしや 首里城】 令和8年9月13日(日) 午後3時～

場 所：首里城公園 首里杜館

主 催：沖縄県文化協会・那覇市文化協会

後 援：沖縄県・沖縄県教育委員会

〈お問い合わせ〉 那覇市文化協会 ☎ 098-861-1909

誇らしや首里城

那覇市文化協会
解説：山内 盛貴



1. 太鼓「招魂の響き」

比嘉 聡 人間国宝
重要無形文化財「組踊音楽太鼓」保持者認定（各個認定）
光史流太鼓保存会会長

久志 大樹 光史流太鼓保存会師範

2. 路次楽



首里王府阿波連次楽御座楽保存会

銅鑼(どら)	喜屋武 卓ハ		
鼓(く)	中本 きよみ	石川 真麻里	金城 美智子
哨ナ(ツォナ)	池城 優美子		
牛プラ(銅角)	大城 徹雄	志堅原 良之	
新心(しんしん)	野原 綾太		
両斑(りゃんはん)	平良 栄子		
馬プラ(リーバー)	山城 祐介		

解説

国王の外遊のたびに演奏された野外ブラスバンド。15世紀尚真王代には既に演奏され、当時の琉球人は中国大陸から楽曲・奏法を学び、王の道行を華やかに飾った。江戸時代になると江戸城までの慶賀「江戸上り」で道中演奏され、琉球の威厳をヤマトの人々に示した。大正元年、沖縄中に散り散りになっていた路次楽の演奏家の元を山内盛彬翁が訪ね、五線譜に書き残した。

3. 首里クェーナ 「あかりゆう」「やらしー」



首里クェーナ保存会

玉城 彌生	嘉数 明美	糸洲 智子
金城 佳子	上里 邦子	田丸 尚絵

解説

南西諸島に広く分布する神歌（かみうた ※ジャンル名）の一種。また、オナリ神信仰に基づく行事で歌われた旅歌（たびうた ※ジャンル名）も含む歌謡群の総称。歌詞は、理想の状態を謡いこむことでその実現を願う予祝（よしゅく）の形式。山内盛彬翁が大正元年、野嵩御殿（尚 祥子 氏）に御内原でのクェーナ音取役を紹介してもらってその旋律を五線譜に記録した。

4. 王府おもろ謡きゆる 「あおりやへが節」



王府おもろ謡きゆる保存会

大城 康彦 山内 盛貴 兼城 正彦

解説

王府が編纂した歌謡集「おもろ御さうし」巻22の儀礼用オモロを歌う役職「オモロ主取」が男性世襲で継承した神歌。首里城内でウマチーや御茶飯（ウチャファン）と呼ばれる船団壮行会、造船式、雨乞い、冊封儀礼の御冠船芸能などで歌われた。最後にオモロ主取、安仁屋眞苺が歌唱していた5曲6節を大正元年に山内盛彬翁が五線譜に記録。

5. 古典音楽「作田節」



湛水流伝統保存会

歌・三線
宮城 康明（湛水流伝統盆会 師範）
渡久地 春憲（湛水流伝統盆会 師範）
大底 秀吉（湛水流伝統盆会 師範）

解説

琉球古典音楽の原点。17世紀中頃、湛水親方（幸地賢忠）が確立させた三線音楽の形式。組踊を創始した玉城朝薫に引き継がれたが、18世紀後半に屋嘉比朝寄に夜当流改革以降はひっそりと首里儀保町の朝薫の子孫らに伝承され、国家慶賀の際に歌われた7曲9種のみが残った。1869年、尚泰王の勅命で欽定湛水流工工四が制作される。大正3年には山内盛彬翁が声楽譜付工工四と五線譜を作成。

6. リズム空手 「第一リズム空手」



空手文化部会

伊覇 尚宏	城間 大伍	山城 雄司
松田 麻由	石川 剛	松田 一斗
上地 春瑠	上地 未流	

解説

山内盛彬が1932年に創作した、空手武術を音楽に載せて芸術化し、これを体育化しようとする試み。師範学校空手部で空手を習得し、また洋楽の作曲法を学習した山内盛彬翁が小学校音楽教諭時代、沖縄の子どもたちのための音楽・体育教育を実践化したもの。空手の基本型を用いた平易な体操舞踊で、空手の本型への導入とする目的で創作された。空手家の渡口政吉氏らとともに世界的な普及に努めた。